



2026 SUPER FORMULA RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd. 3 - 6 - 7

7.17 [fri] - 19 [sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] [fri] 雨 [sat] 曇り/雨 [sun] 曇り

[spectators] 56,000人 ([fri] 3,600人 [sat] 22,700人 [sun] 29,700人)

Rd.1-2	MOBILITY RESORT MOTEGI	APR 3 - 5
Rd.3	AUTOPOLIS	APR 25 - 26
Rd.4-5	SUZUKA CIRCUIT	MAY 22 - 24
Rd.3-6-7	FUJI SPEEDWAY	JUL 17 - 19
Rd.8	Sportsland SUGO	AUG 8 - 9
Rd.9-10	FUJI SPEEDWAY	OCT 9 - 11
Rd.11-12	SUZUKA CIRCUIT	NOV 20 - 22



小林可夢偉がRound7で9位を獲得。
小林利徠斗もRound3で7位初入賞を飾り、
確実に前進を果たす。



「2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round3・第3回瑤子女王杯 Round 6・7」が7月18日(土)・19日(日)に富士スピードウェイで行われた。今大会は、悪天候で決勝レースが実施できなかったオートポリスでのRound3決勝レースの代替戦が組み込まれる変則スケジュールで開催。小林可夢偉はRound7で9位に入り、今季2度目のポイントを獲得。小林利徠斗も代替戦であるRound3で力強い走りをみせ、7位に入り、スーパーフォーミュラ初入賞を果たした。

RESULTS

Round 3
グリッド 19位 決勝 12位

Round 6
予選 11位 決勝 12位

Round 7
予選 16位 決勝 9位

Rd. 3	Rd. 6	Rd. 7
QUALIFYING 1		
P2 (A Gr)	P8 (A Gr)	
1'33.869	1'24.833	
QUALIFYING 2		
P11/1'33.247	-	
RACE		
P12/1'25.689	P12/1'26.257	P9/1'25.414

STANDINGS
DRIVERS 21位 | TEAMS 12位

7 小林 可夢偉 | KAMUI KOBAYASHI
KDDI TGMGP TGR-DC

RESULTS

Round 3
グリッド 16位 決勝 7位

Round 6
予選 4位 決勝 19位

Round 7
予選 19位 決勝 20位

Rd. 3	Rd. 6	Rd. 7
QUALIFYING 1		
P2 (B Gr)	P10 (B Gr)	
1'33.309	1'23.870	
QUALIFYING 2		
P4/1'32.617	-	
RACE		
P7/1'25.215	P19/1'25.390	P20/1'25.912

STANDINGS
DRIVERS 20位 | TEAMS 12位

28 小林 利徠斗 | RIKUTO KOBAYASHI
KDDI TGMGP TGR-DC

QUALIFYING

Rd.6 天候:曇り | 気温:23℃ | 路面温度:26℃ **Rd.7** 天候:曇り | 気温:26℃ | 路面温度:30℃


通常は、土日の各日で予選と決勝を行うが、変則スケジュールのため18日(土)に2戦分の予選が行われた。8時15分から始まったRound6予選は、前日まで降り続いた雨の影響でウェットコンディションとなっており、雨用のウェットタイヤを装着してタイムアタック。KDDI TGMGP TGR-DCは力強いペースを発揮し、2台ともQ2に進出。小林利徠斗が4位、小林可夢偉が11位を獲得した。10時35分からのRound7予選は路面状況が回復しスリックタイヤを装着して各車が出走。ここでも上位を目指したかったが、小林可夢偉はAグループ8位、小林利徠斗もBグループ10位とQ2に進むことはできなかった。

RACE Rd.6

天候:曇り時々雨 | 気温:25℃ | 路面温度:29℃

16時15分から41周で争われたRound6決勝では、途中で雨がパラつくなど不安定な天候のなかでレースが進んだ。4番グリッドからスタートした小林利徠斗は、マシンバランスの変化が大きく、特にレース後半で苦戦。最終的に19位でレースを終えた。11番グリッドからスタートした小林可夢偉は最終ラップに入るところでタイヤ交換義務を消化する作戦に出たが、入賞圏内に一步届かず12位となった。



RACE Rd.3

天候:曇り | 気温:29℃ | 路面温度:34℃

オートポリス大会の代替戦であるRound3決勝は、レース中のタイヤ交換義務はなく、25周で争われた。途中で2度のセーフティカーが入る波乱の展開となったなか、16番グリッドからスタートした小林利徠斗が力強い走りで7位まで順位を上げ、スーパーフォーミュラ初入賞を果たした。小林可夢偉も19番グリッドからポジションを上げて12位でゴールした。



RACE Rd.7

天候:晴れ | 気温:29℃ | 路面温度:36℃

15時15分から行われたRound7決勝(41周)だが、フォーメーションラップ中に他車から漏れ出たオイルの処理のため、スタートが約1時間遅れることとなった。16番グリッドの小林可夢偉は、早めにタイヤ交換を済ませる作戦を選択。着実に順位を上げていき、9位入賞を果たした。小林利徠斗もレース前半にピットストップをする戦略で上位を目指したが、20位でレースを終えた。





Driver

小林可夢偉

いろいろ試している中で方向性は見えてきていると思いますし、確実に戦力は上がってきていることが実感できる週末だったと思います。Round6では戦略も含めて裏目に出ることが多かったのですが、Round6とRound3で学んだことをRound7で全て活かし、戦略も切り替えて臨んで、最終的にポイントを獲得することができました。次戦に向けては、さらにレベルを1段階上げて、まずは予選で上位につけられるような戦いをしたいです。



Driver

小林 利徳斗

Round6 決勝では苦戦を強いられたところから、Round3ではセッティングを変えて臨んだ結果、7位入賞というかたちで終わられました。今年はポイントを獲得することがひとつの目標だったので、嬉しいです。Round7でのバランスは決して悪くありませんでしたが、ペースが良くなかったため、それらも含めて原因究明が必要です。次戦は僕の地元である東北大会なので、これまで成長してきた部分を少しでも良いレースに繋げたいと思います。



Team Director

片岡 龍也

前回の鈴鹿大会で良い流れができはじめました。それを今週末も維持することができました。さらにレベルアップしていくために大胆なトライをした週末でもありましたが、そこは可夢偉のフィードバックがかなり役立ちました。まだ改善が必要な部分もありますし、まともきっていないところもありましたが、その中でも底上げはできていると思います。その結果、Round3で利徳斗が初ポイント、Round7で可夢偉がポイントを獲得したことが更なる励みになります。
















